園だより

つくし

令和７年９月２６日

新潟市立結幼稚園

子どもも真剣勝負、支える教師も真剣勝負

～「年齢の枠を越えた育ち」（異年齢保育）を追究し、全教員で話し合い、挑戦しています！～

園長　本多　郁代

遊戯室では運動遊びが盛んに行われ、子どもたちの大歓声が響きます。そんなある日、玉入れの籠を遊戯室の中央に設置すると、さくら組対ばら組の玉入れ競争が始まりました。

１回戦；赤組（年中：ばら組）対　白組（年長：さくら組）→　白組の勝ち！

１回戦を終えて、玉の数が違うのではないかとの声があり、赤組と白組がそれぞれ玉の数を数えました。するとどちらも２０個。どうやら勝敗に玉の数は関係なかったようです。すると、ばら組から、「背の高さが違うから、さくら組とばら組の混合チームにするのはどう？」という提案があり、さくら組も「いいね。」と納得して２つに分かれようとしましたが、「さくらは５人だから分かれられない。」と、問題が勃発。すると、ばら組も一人欠席で９人ということが判明し、チーム分けは難航したため、「とりあえず分かれてみようか」との教師のアドバイスを受け、チームは完成しました。
（教師；年中、年長合わせれば 14 人で半分に分かれることができるが、その考えはこちらから提案せず、まず子どもたちに分かれるよう行動を促し、その後、どうなるか様子を見よう。）

２回戦；赤組混合チーム　対　白組混合チーム　→　白組混合チームの勝ち！

２回戦を終えて、人数は確かに同じだけれど、やっぱり白組に背の高い人が多いようだということになり、どちらのチームも同じくらいの背の高さにするために、友達同士で背比べが始まりました。しかし、それぞれで比べるだけで、なかなか決まらず、最後は年長組の一人が、背の高いお友達から順に並べ始め、それに気付いた子どもたちも教師の声掛けで並び、新しいチームは完成しました。
（教師；チーム分けの視点が身長差で他の視点は？とも思うが、主体性を重んじ任せよう。）

３回戦；新赤組チーム　対　新白組チーム　→　新赤組チームの勝ち！

新しいチームでは赤組が勝ちましたが、接戦だったこともあり、子どもたちはチーム編成に納得したようでした。（教師；欠席者の扱いや最終的に子どもが人数にこだわったらどのように対応するかなど教師も真剣に今後の対応を検討する。）そして翌週。

４回戦；新赤組チーム　対　新白組チーム　→　新赤組チームの勝ち！

両チームが作戦会議。連続２回負けた白チームは「みんな聞いて、一人がいっぱいつかんだ玉をこっちが取り合いしているうちにあっちのチームがどんどん入れちゃったから負けたんだよ。」と、さくら組が説明すると「けんかしないで自分がつかんだ玉だけ投げるってことね。」と、ばら組が理解して作戦会議終了。（教師；作戦を練り始めている。欠席者についても現在問題なし。様子を見よう。）

５回戦；新赤組チーム　対　新白組チーム　→　新白組チームの勝ち！

さてさて、運動会当日はどんなドラマが待っているのでしょう。
当日の三種競技をお楽しみに！